柏崎体育

発行所　柏崎体育団事務局
（柏崎市役所内）
発行編集人　月橋　套
印刷所　柏崎印刷株式会社
定価一部15円
（毎月1回10日発行）

芭蕉が岡に青少年の家

建設への基本的構想

青少年指導の中心命題

終戦による混乱もようやく一段落ついた現在、あらゆる狂態に似た騒動から目醒めて、一般国民の気のついたことは何であろうか、それは、ほかでもなく自分たちの責任において生んだ「青少年不良化」の問題であった。すなわち青少年不良化は文化の発達と正比例するかの如き上昇線を持ち戦争という破局によって飛躍的に増大して来たのである。東西の歴史の示すところにより、このことは充分推察し得ることであるから識者は警告し、憂世の士は自らその対策の一線に乗り出していたのであった。しかし一般大衆は自分たちの問題として身近に感ずるに至らず無為に今日の事態を招くに至ったのは極めて残念なことである。

今になって、青少年に関係する殆どすべての団体が口を開けばこのことを云いなんらかの実践をしようとしていることは遅きに失したとはいえ、いまなお目下の緊急事たるを失わない。

その意味においては相ともに全力をあげてこのことに当らねばならないと思うのである。ただ考えねばならぬことは、目前の事態に目を奪われるのあまり、その中心を貫かねばならぬ重大な問題を忘れていないかということである。およそ不良とは良に対する言葉であり、不良対策が論ぜられるとすれば、良に育成する基本が確立していなければならないのである。この点果してどうなっているのであろうか、青少年育成の方途方策は多岐にわたるが、その根元を貫いて動かぬものがある。それは行為行動性による教育ということであると思う。人間の教育といい指導というものゝ全部がそれであるとはいい切れないが、青少年においては特に行為行動性による指導が大きな迫力と効力を持つことをいいたいのである。彼等の時代においてこの方針が逸脱されたなら、その発達課題に応ずる体得体達は死に至るまで取り返せずに終るであろうし、この時代にこの立場からの指導がなされたなら一生大きな影響を与えつゝ彼等の将来を卜すると思うのである。

ドイツに見る例

第一次世界大戦のどん底から立ち上ったドイツを分析すると彼等はその方法として青少年指導に二つの方向をとったのである。すなわちその一つは、ワンダーフォーゲルである国内各地を巡りつゝ祖国の歴史と地理とを知り大ドイツ建設への熱情を沸かしたのである。他の一つはグライダーによる空への進出である。飛行機を持つことを禁ぜられたのが直接の原因であるがグライダーが採り上げられたことは、偉大なる成功であったと思うのである。ワンダーフォーゲルが大まかでもよいのに対し、グライダーは極めてちみつを要求し前者が原始的自然的要素が多いのに対し後者はあくまでも近代的科学的である。持てるものの古きものを通じ、来るべきものへの熱情が前者とすれば、あくまでも持たないものの新しきものを獲得することによる憧れの実現が後者である。必ずしも大勢の協力を必要とせず、時には孤独もまた楽しとするワンダーフォーゲルに対し一糸乱れぬ鉄の団結と協力を強く要求するグライダーはまったく相反する両面からドイツ青少年を鍛えあげたと思うのである。

この二つの組合せの中には説教ではない道徳、暗記でない科学が立派に生き、民族性の基本が豊かな人間性とともに生々と育ったのである。我々が学ばねばならぬのはこの青少年指導のバックボーンとしての行為行動性の重視である。

青少年指導における野外活動の意義

書物と眼鏡と暗記の象徴する進学の世界のみが青少年の世界であることは国家の滅亡である。その世界は孤独になり易く病気が待っている。そしてともすると利己主義になることさえある。健康で明るい生活、民主団結、協力の世界とは縁が遠くなる怖れが充分ある。そして、今のようなこのような世界が青少年の世界の普通な姿であると思われるようならば、わが国とわが民族の将来は絶望の外ないと思うのである。勉学ということが、青少年にとって極めて重大であると思えば思うほど、我々はドイツに学ぶまでもなく、改めて行為行動性を理念の主軸とする指導を考えねばならない。そして、その重要素因となる野外活動を注視しなくてはならないと思う。

最近、野外活動と称し単なるキャンプのみ指したり形式的に若干のハイキングや水泳をつけてこの名を名乗るものが多いが、野外活動とは「自然にかえること」「健康の環境におくこと」等の外に、野外においてこそ我々の生活を最も根元的素朴性の中にかえし、我々のすべての教育の総合性を見ようとするものである。したがってそれは素朴の形においてであるが、持てるものの総合性の指導でなくてはならない。青少年における野外活動の指導を単にレクリエーションと見るのは当を得た考え方ではない。

野外活動の指導における海洋訓練の重要性

野外活動の指導は大別して陸上を使うもの、海上（中）を使うもの、空中を使うもの、この間を貫いて機動力を使うものと三別または四別することが必要であると思う。陸上のものが基本であることは論をまたないが陸上は基本であるだけ真に身についたものとすることが困難な場合も多い。例えば、気象について雲や気流や、風、気温等は陸上の変化はゆるやかであり直ちに自分との関連を読みとりにくい。しかし、これを海上にすると全く身近なものであり、この知識があるとないとでは非常に大きな差が生じて来る。なおこれが空ならばもっと〳〵激しいものであることは論をまたない。ロープの取扱いでも結索でも陸上における訓練はとかく訓練のための訓練となる。しかし海上では「もやい結び」が出来なければ船をつなぐことが出来ないのである。

責任を遂行するといっても陸上では怠けることも不可能ではないが、海上においては誰かがなまければ、それは結果として明瞭に現れる。このきびしい行為の中に海洋人としてのたくましさが生れ養成されてくるのである。このように考えると総合訓練として海における訓練はもっとも理想的と思うのであるから、今日以後の野外活動の指導には是非採り入れねばならないと思うのである。在来水泳程度で海を利用したとお茶を濁した感なしとしないが本当に海洋と取組むべきである。なお後日許されるならば空への訓練を採り入れねばならぬ事を肝に銘じておくべきである。我々の考え方を卒直に申し述べるならば次のように申してみたい。初級野外活動は陸上だけ、中級野外活動は陸上と海上、上級野外活動は陸上・海上・空中であると。

青少年野外活動の場としてもつとも理想的な柏崎市

青少年に真に野外活動の場を与えるとすれば、陸・海・空の要素を持ち併せて機動力の訓練指導地となり得るならばこれにこしたことはない。このような条件を満たし得る所を県内に求めるならば柏崎が最適地であろうと思う。すなわち海は東は高浜の椎谷の鼻から西は米山町の海岸に至るまで、港あり、岩礁あり、砂浜あり、断崖ありでことごとくそれ〳〵の意義を持ち、陸上においては名峰米山を頂点として、谷根のけい谷、鯖石の平野、剣野の大丘陵荒浜の大砂丘砂漠、どんな地形どんな種類でも併せ持っている。空については、かっての荒浜の滑空訓練所の土地はそのままであり広漠たる無人地帯と砂漠はどこでも適地となる所ばかりである。およそこれだけの条件が具っている所は我もなく、限り他に求め得べくもなく、完璧なる土地として声を大にして呼びかけたいと思う。なお目下建設中の県立柏崎工業高校横の自動車訓練地は周辺の膨大な市有空閑地と共に機械と機動力の有力指導基地となることが出来ると思う。市をはじめ各層が全力を傾倒してこの天恵有利の条件を最大に活用すべきであると思うし、県政為政の立場の人々もこの点に着眼され、多くの青少年のため能う限りの理解と協力を与えられんことを願うものである。

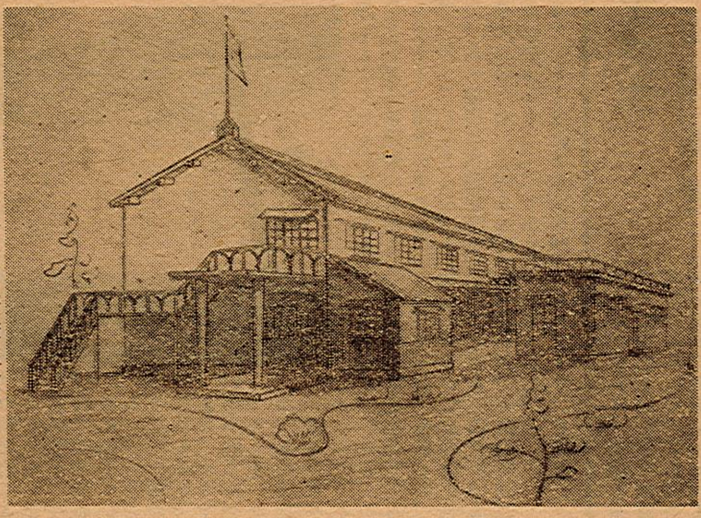
我が国の体育界に望む

柏崎市長　洲崎義郎

暗黒と悲惨な敗戦の運命の中に、ずる〳〵と巻きこまれた日本民族の将来が、このまゝ起き上れなくなるという様な事があるならば千歳の痛恨事と言わざるを得ない。我等国民は今こそ敗戦の現実を真剣に内省し謙虚に把握して、其の中から逞ましい生命力を創造して、新しく正しい世界観を確立し、立派な文化を建設しなければならないが、そのためには、なんとしても心身の合理的な、健全な発育を企図することが根本の基礎問題として考えらる可きである。然るに現在我が国の政府及び民間に於て計劃し、実施されている学校体育併びに社会体育は、今日の時代に於て、其の内容や技術の面で、一大改革を断行しなければならないと確信する。

即ち、文化や経済や政治等のあらゆる面から綜合的な関連に於て、理論と実践が行われなければならない。それは丁度近代都市の構成が綿密にして科学的な都市計劃の下に建設されなければならぬと同じことである。ところが先に述べた様に我が国の体育は、文部省厚生省、民間団体等が相互の縄張りの中で、てんでばら〳〵に勝手な方向に、理論づけと実践が行われて、極めて場当りな、其の日暮しの感が深いものがある。これでは真の意味の体育は興り得ないと断言する。

我々が健康な心身を希求するものは、小手先の技や独善的な理論から脱却してそれによって価値のあるより高い人間性を創り出すことによって、世界の人類に、幸福と平和とをもたらす、純度の高いものでなければならない。私は今我が国が、世界の政治経済の動乱の嵐の中で、毅然として我が道をゆくの態度で邁進せられん事を、我が国の体育界に望んでやまない。


【写真　芭蕉が岡荘透視図】

指導訓練にはセンターが必要

柏崎の持つ有利な条件を最大限に生かすにはセンターの必要なことはいうまでもない。センターの持つ条件として考えられることは次のような項目となる。

1、人家密集の地域から離れていること。
2、眺望が雄大であり美しいこと。
3、自然的環境に恵まれていること。
4、各種訓練（キャンプ、登山、ハイキング、水泳各種スポーツ等）に適していること。
5、海洋訓練が出来ること。
6、衛生上恵まれた環境であること。
7、出来得れば交通が便利であって、しかもそれが訓練、指導の障害にならぬこと。
8、施設周辺の人心が温厚であり協力的であること。
9、相当土地の余裕があり将来の拡張にも対処出来ること。

なお出来得れば比較的少い経費で拡張の可能性が認められること。

このようにして、センターがきまったならば出来得るだけ健康で清潔な建物を中心とした施設にすべきであろう。

柏崎市内においてこれらの条件を満たす所を検討し、いくつかの候補をあげてみ、さらに考慮した結果、笠島の芭蕉が岡が最もよい土地であるの結論に達した。

センターの位置としての笠島芭蕉が岡

芭蕉が岡は、市内大字笠島に属し海岸段丘の岡である前段の各項目について見ると

①人家からの最短距離はいずれも徒歩七分乃至十分を要し、東は笠島、西は上輪新田の部落である。

②眺望は佐渡を北に弥彦、椎谷を東北に見、西は能登半島、北アルプス頸城アルプスを一望の中に収め、眼下から日本海が広がり、その風光は豪壮雄大華麗の一語につきる。

③土地の頂点を標高約一〇〇米とする段丘で相当広大な面積を持っている。大部分が松、柏等の林と雑木、かやの藪であり、一部が畑となっている。野球こそ出来ないが大ていのスポーツをやり得る面積を持っている。下は牛ヵ首層間褶曲をはじめ奇勝に富む岩礁で釣には最適である。米山頂上へは徒歩約四時間また米山三里（米山峠）のほぼ中央にあたり、谷根、青海川、米山町いずれへもハイキングが出来る。すぐ下は笠島の漁港であり冬でも舟を繋いでおくことが出来る。海洋訓練には絶好の場所であり、相当の施設も持っている。

④衛生的には全くの健康地で、土地高燥、最適の地である。

⑤交通については、国鉄笠島駅から徒歩十分、すぐ下をバスが通っている。そのようでありながら標高の差によりいささかも指導訓練の妨げとなることがない。

⑥土地は吉尾、小杉の方へずっと延び、人家なども全くなく、松または雑木の林であるから将来の拡張等に対しては充分満足させ得る条件にあると思う。

⑦幸にして地元の人々も非常に協力的であるので、この将来には明るいものが持ち得ると思われる。

センターの構成をどうするか

(1)敷地について

いくらでも欲しいのであるが、とりあえず二―三万坪を確保したいと思う。

②建物について

青少年の家の本来の目的から見て常時幹部または団員の訓練をして休む時のないようにすることが大切である。そして市内の青少年だけでなく、広く県内の各種講習会を招致して、この建物を無駄なく活用させたいものである。

なおその上全国との連関をつけ、全国の青少年の来遊をも考えておかねばならないと思う。名称はどうなろうと、ワンダーフォーゲルサイクリングは必ずさかんになって来る運動であるから、今のうちからその対策を考えておく必要がある。

以上の各要点を考慮して建物に対して次のように条件をつけたいと思う。

1、出入りが容易で使い易い建物であること（キャンプが主になるから）。（広い廊下、ベランダを広くとる。便所、シャワー、浴室等は靴のままでも使用可能にした。
2、環境衛生の設備を出来るだけよくすること（簡易焼却炉、水洗便所等にした）。
3、共同の広間と男女別の寝室を設ける（ユースホステルの条件）。
4、男女別の便所と浴室（〃）。
5、管理人の常時管理（〃）
6、荷物や自転車をしまう倉庫（〃）。
7、比較的余裕のある炊事室。
8、西北の強風に充分備え建物はその位置を考慮すること。
9、将来の拡張に備えておくこと。

このような条件の下に計画してみた

③経費について（基本についてのみ）

建物　本館木造、一二三五坪、@三、一〇〇円、三、八二八、五〇〇円。附属建物（鉄筋コンクリート）三八・五坪、@四〇、〇〇〇円、一、五四〇、〇〇〇円。小計五、三六八、五〇〇円。

整地　道路、一五〇米、巾四米、@一、五〇〇円、二二五、〇〇〇円。整地費三〇〇〇坪、@一〇〇円、三〇〇、〇〇〇円。小計、五二五、〇〇〇円。総計五、八九三、五〇〇円。

財源　国庫補助金（全部木造と見て）現行補助率で、坪一二、四〇〇円として一六二坪分、二、〇〇八、八〇〇円。自己負担、三、八八四、七〇〇円。

この基準経費の外に一般備品費、宿泊用品、電気引込工事費、電話引込工事費、給排水工事、飲料水給水（井戸ポンプ配水）等があるので実際上は一千万円かかると思われる。

実現のためには

野外活動の指導に柏崎市が優れている立地条件を持つていることを関係者からよく認識していただくこと、そしてそのセンターとしての芭蕉が岡が卓絶していることを明確に知って協力一致していただき、実現のために立上って最大の力を傾けるべきだと思う。ユースホステルとして補助をもらう方向に出た方がよいのではないかと思うが、補助金の折衝となると余程の力を結集しなくてはならないと思う。また補助金が来るとなっても、いろいろの条件や意見がつくと思う。実現するとしても、この図画のようにはなかなかいかないと思う。考えれば考えるほどこんなことが限りもなく出て来る。だがどうしてもやりとげたいと思う。青少年のために。（終り）

御野立グラウンド建設の内幕

月橋 会

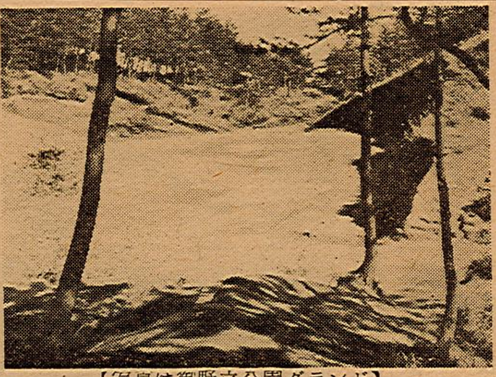
今だから話そうなどというと、所謂真相ものの様でさも大事件がその背後にあるらしく見えるが、それほどではないにしても、多少の隠れ話はあつたわけだ。

御野立大児童公園を作るという計劃を発表したのは私であつた。今のグラウンドを中心として、球技場、児童館を始め各般の施設を造り、本当に児童の場所としたかつたのであつた。坪数二万五千坪から三万坪、あらゆる施設をあの土地の地形と環境を利用して、設けようと計劃したのだ。結果から見て、今のグラウンドと球技場が出来たゞけに終つているが、今尚私の夢は消えない。

当時私は厚生課長であり柏崎の社会福祉事業を、全国のモデル地区指定にまで盛り上げた時であつたので児童福祉の立場からの強い祈念がそうさせたと思う。新聞社が素早く嗅ぎつけて紙上に発表した。とたんに反響が色々出て来たのだが最も大きかつたのは鯨波地区であつた。鯨波地区の石黒氏など、わざ〳〵私の所まで来て、何が何でもやり抜きましようぜ、などと固く決意を披歴して、逆に私にハッパをかけて帰る有様であつた。地元には、早速期成同盟会が出来上り、明日からでも鍬を持つて駈けつける位の元気である。よしやろうというので、予算が何もないのに仕事にかかつた。今の役所流に、予算がないから出来ないの、設計図がないから何が出せないのなんとは言わず、簡単な何を出して決裁をとり、どん〳〵工事をはじめたわけであつた。市長が判を押したかどうか今明確な記憶がないから、或いは助役の代決であつたかも知れないとにかく決裁をもらったからやろうぜと言うことで、実に勇敢に工事にかかった金がなくて請負に出せないから、全部地元の人々の無料奉仕であった。グラウンドになる前は、今の炊事場の所から、だら〳〵下りで地替が渕まで、芝原に萱の生えている所だった。工事ははじめの中は極めて簡単両側を削って、真中に持ってくればよいのである。鍬とスコップとつるはしと、「もっこ」の作業だ。今から思うとよくもやったものだと思うし、鯨波地区の人達もよく出てくれたものだと感心する。こうして、どん〳〵と言いたいが、機械力が何もないから中央から遠くなるに従い困難度は益々高くなるのだから遅々として進みはじめた。

所が大問題が起きた。時の市長三井田さんが、何かの折に御野立に行つて、この工事を見てガン〳〵に怒つた。「一体誰の許可を得て、市有地をこんな事するのか」というわけだ。そのことは早速私の所へ連絡があつた。私は「市長が直接私に言えば、私の考え方を申上げる、あんた方は、私が決裁を受けてやつた事だから安心してやりなさい」と言つて帰したわけだ。所がこの問題は中々むずかしくなつて、一時はどうなるかと心配したが、幸いに市長もグラウンド建設の事には了解を与えてくれ、工事を続けることが出来た。

所がまた厄介な問題が起きた。今のバレー・コートの所は山で、松林を切り払つた後を、畑にしていたのであつた。そこの土を道路や、学校に持って行くためどん〳〵とって、だん〳〵と平地になりつつあつた。そこへ市営住宅を造るという方針だというのだ。驚天動地となつたのは私である早速石高土木課長に真偽をたゞすと、市長がその方針だと言う、とんでもない事で、あの場所に市営住宅を建てられたら、こちらの計画は根本からでんぐりかえる。でんぐり返るのはまだよいとして、柏崎の観光政策もだめになるというわけで、土木課長には、再三に亘り説きつけるが、彼氏市長の意向だと言うことで中々聞かない。しかし最後には漸く聞いてくれ、とにかく自分はわかつたから市長に言うという事で話がついた。今から思うと三井田市長の考えなのか、石高課長の考えできめたのかよくわからないが、どうにかこの最大の危機は回避出来た。


【写真は御野立公園グランド】

全体を通じ、私が精神的に一番苦労したのはこの時であつた。こうして悪戦苦斗の結果建てさせなかつた市営住宅が、今岬町の国道わきに建つているトタン葺きの二戸一棟の五棟の住宅である。もはや市が個人に売つてしまつたが、あの様な住宅が今のバレーコートにならんで建つていたら、その光景は一体どんなであろうか。キャンプの隣りに、おしめの下つた貧弱な住宅があるなど考えるだけでも嫌な想いだ。これが昭和二十三年である。

あのグラウンド建設に、市が予算をつけたのは、前後二度合計して一三万円と記憶している。今ならば失業対策事業などには絶好であるのだが、この予算では如何ともしがたく、地区民の外に、市内各学校、郡市青年団等からも勤労奉仕をしていたゞき、足掛三カ年かかつて漸くにして出来たのである。あのグラウンド程多くの人の手によって出来たものは他に例がないであろう。トロッコもほとんど使ったという程使わず素手によって造りあげたと揚言しても差支えない有様であった。若し汗とあぶらで出来上ったものをあげよと言えば先ずこのグラウンドをあげざるを得まい。

又小学校の校長先生も中中熱心であった。特に杉山校長の時が最も苦しかつた時であるがよく熱心にやられた。故人になられた今日、その功績を報告し御冥福を祈りたいと思う。

もう建設十年の年を迎えるという、感慨無量であるあのグラウンドに立って、削りとられた両側の垂直の壁を見ると、大勢の鯨波の人達をはじめ、こゝに奉仕された人の汗と泥にまみれた顔に見えて来る。そして海のうた声と松の梢の鳴る音を聞くと、進んで起ち上ったこの地区の人達の苦しいが楽しい奉仕のさゞめきに聞える（市衛生体育課長）

社会体育の重要性

柏崎体育団
社会体育部長　坂田四郎吉

社会体育の重要性とは結局全国民体育の重要性と云う事になるのであります。

さて社会体育とは何を意味するものでありましようか、それは学校体育を除いたすべての体育をさすのであります。しかし乍らその学校体育そのものが対象的である学生も生徒も児童も亦学校以外の生活では家庭人であり社会人であつて、是亦社会体育の対象となるのでありますから、結局社会体育は国民全般の体育と云う事に相成るのであります。

然らば社会体育の目的は何であるか、このような事は今更申し上げるまでもないのでありますが、夫れは一人一人の国民を健全で有能な身体に鍛え上げることが第一条件であります。それと同時に、公民としてのよい社会生活に導き、道徳的人格を育成すること、之れが更に重要な体育の目的でなければならぬのであります。

われわれの体格も性能もそれは遺伝によつて将来なし得べき事の大半は、誕生の際已に決定しているわけでありますが、然らばわれわれは与えられたる天賦の体格や力量を、ひとりでに発揮し得られるでありましようか。それは一生涯を通じての生活と衛生法や体育法如何にかゝつているのであります。実際われわれは原始時代のような自然生活と相違して、此の文化の進んだ社会にあつての勤務環境や生活環境が、身体方面に害毒を及ぼす方面の要素ばかり多くなつているのであります。実際あらゆる職業が健康を犠牲にしても生産をあげるのが目標で、身体は衰弱消耗するという、即ち身体が仕事に負けるという身体方面から考えると誠に非文化的の現代であります。此の肉体方面を強調する手段が体育でありますこのとどまるところを知らぬ生存競争の中にあつて、その病的弊害を予防し、矯正するの手段、これが社会体育の第一条件であります

更に社会体育の大切な目的は、前述のように公民としてのよい社会生活に導き道徳的人格を育成することであります。実際物質文明の発達は必ずしも精神文明の発展が併行せずに、寧ろ思想方面に悪い影響さえ及ぼすと云う憂うべき現象であります。之れが為に、人をして明朗、清廉、純真無垢の心に導入する体育を強化し、道徳的頽廃を防止し、一般の教養を高めようとする、これが又社会体育の重要なねらいであります

然る処、日本の教育は学校教育万能でありまして、社会教育制度は誠に不備であり、低調であります。況んや体育に於ては尚然りであつて、学校を卒業すると同時に体育も卒業したものと決めこんで顧みないのであります。

聞く所によると、文化の進んだ諸外国では、社会体育と云うような体育体系は見られないと云うことであります。これは国民各自が体育には高い理解があつて体育はそれぞれの生活となつているからであると言うことであります。然るに日本国民は、誰か、引きずつて呉れるものがないと自らすることをしないと云う国民性であると言われて居ります。茲に於て社会体育の啓蒙と指導が極めて重要であるわけであります。従つて我々指導員の責務は誠に重大であり自責の念切なるものがあります。と同時に市当局を始め、社会教育関係各位より市民体育に対する施設並に指導機関の強化充実に充分の努力を払われますよう切望してやみません

健民少年運動に理解と協力を

鯨波健民少年団　石黒通夫

柏崎に健民少年運動が第一歩を踏み出したのは、たしか二十七年八月だと記憶しています。三十名の代表少年を横浜に派遣して、花々しく、しかも遠大な理想に燃えて発足してから満六年。その間、三十年四月に鯨波地区にこの運動が起こった頃を絶頂として、急速に影をひそめて来た事実は残念乍ら認めざるを得ません。その原因が奈辺にあるか、いろいろ考えなければならない大きな問題があり、それらの問題の中には今後共、尚根強く残って来る未解決なものもあると思いますが、要はよき指導者が得られなかったこと、指導者層の薄さが根本原因ではないでしょうか。

総ての青少年運動のポイントは、何といっても指導者に人を得なければならない事は、多くの実例が示す通りで、これは誰しもが認めるところであります。幸いわが健民少年運動の母体は輝かしい歴史をもつ柏崎体育団であることを思う時例え一時の沈滞期はあったにもせよ、前途尚明かるく期して待つべきものがあることを確信致します。丁度培養土に蒔いた種が、旱天の為に少々しおれて来たようなもので、ここで機を逃さず灌水し日光にあてれば必ずや又芽をもたげて、すく〳〵と成長して花を開き実を結ぶことは疑いもありません。

以下いさゝか健民少年運動の概略を記して、各位の御協力とをお願いするものです。

健康とは〃疾病や虚弱の存在しないだけでなく、肉体的にも精神的にも又社会的にも安定した状態にあること〃（国際連合の世界保健機関）と定義づけられておりますが、この健康に対して配意工夫するすべてが体育であり、およそ体育人は生活即体育の広い観点に立つ認識が必要だと思います。とに角健康を考えない体育は絶対にあり得ないわけで、その点二十六年頃体育団が市民体育の振興に意を注いだ事はまことに当を得た策だと思います。

肉体的にも精神的にも激動期にある青少年時代に正常な体育活動を与えることは生涯の身体的発達の基礎であり、決定的条件であります。〃鉄は赤いうちに、竹は青いうちに〃といわれています。

次に毎日の新聞をにぎわしている十代の子どもの非健康的な行動が問題になると思いますが、この十才代の頃は、丁度集団行動を通じてあらわれる社会意識的な自我が目覚める最初の時期であるといわれていますこの社会的自我の自覚過程に於て個人と社会の親和的関係が生まれ、統一された社会的意識へ到達する事が出来ます。青少年が内に社会的自我の目覚めがなく、外に主知的な学習の重荷が加わる時、彼等におそいかゝる精神的な空白こそ最も警戒しなければなりません

こうした青少年を育成する為には心身一体の教育が必要であります。即ち純真で豊かな感情を持ち、しかも旺盛な気力と体力とを具備して、之に知性的な活動が有機的に一体化され然も理想主義的な活動を持たせることが必要だと思います

ここで健民少年運動の性格を具体的に記すならば

1 青少年の健康性の獲得を中核として、おし進める運動です。

2 健康的にして民主的な社会の一員としての正しい権利義務を、健康生活の上に具体化していく運動です。（個人の健康なくして民主的社会の維持発展は考えられない）

3 この運動は地域運動です。地域の特殊な生活環境に対して、健民としての積極的な作為がなされなければ非健康性は益々増大します。

4 地域の総ての少年が参加することが希ましい運動です。

5 この運動の基本要件は少年の身体的心意的特性を考慮して運動内容を決定するものです。

現在鯨波健民少年団がやっております活動のあらましを御紹介しますと

1 交歓活動として、大体二泊三日の予定で実施し、これ迄に新発田、会津若松、横浜等の各市と交歓しました。

2 自然活動として、春秋のハイキング、笹ケ峰戸隠、近くは上下浜、御野立等でキャンプ、八石、米山登山等

3 体育活動として、水泳訓練、スキー、春秋の球技大会等

4 地域活動として、集団行動、野外活動に必要な基礎訓練、技術、社会的諸行事への参加保健衛生に関する奉仕活動その他及び活動

以上の如く、少年が健全に育つ為に、自然的な生活をすゝめ大自然と親しみ又風物習慣を異にする他郷の少年と交歓して交りを深め見聞を広める等精神と肉体が調和的に発達する誠実な少年の育成を狙っています

私は近き将来、市内各地域に健民少年運動が澎湃とじて起こり、健康柏崎の礎石が体育関係者の手によって、どっしりすえられることを念願してやまないものです。各位の御理解とお力添えを切にお願いするものです。

柏崎市体育指導委員より

坂田四郎吉
矢島政数
柳喜八郎
瀬下実
柴野三郎
朝比奈恭子
長谷川晴子

私達は、昨年六月三十日附で新潟県教育委員会から柏崎市体育指導委員として依嘱されました。このことは、既に柏崎市広報にて発表されましたが茲に「柏崎体育」紙上を拝借御挨拶申上げますと共に、此の際体育指導委員の性格を申上げまして、充分の御協力を御願い致したいと存じます

文部省に於ては、昭和三十二年度において、ひろく全国における社会体育の指導組織を確立し、指導者の活動を促進するため、体育指導委員を全国に約二万人を設置することになりましたことゝも、新聞紙上等を通じて既に御承知のことと存じます。而して、私達七人が、柏崎市の指導委員として依嘱された次第であります。

わが柏崎市は、体育都市として既に全国的に有名であり、体育に対する理解も而してその普及率も比較的高いように言われており、われわれ不束者揃いにては指導等、甚だおこがましい至りでありまして、自責の念に堪えないのであります然し乍ら、われわれは市民各位の御支援の下、既に従来より社会体育振興に就いて相携えて奉仕して参りました同志でありますので、一層の熱意を以て御奉仕申上げ、御信任にお応え致したいと存じます。

さて体育指導委員は前述のように、全国に二万名程度に設置されましたが、これは人口四千名に一人の割とのねらいである由、これから推せば柏崎市は二十名の指導員を要する事になりますので急速に増員をして戴きたいと存じます。

尚文部省は、体育指導委員に対し、地方自治法の規定にもとづいて、一応名誉職という原則を示して居ります。と同時に非常勤公務員として身分を保障し、指導手当ならびに指導経費を計上するよう要望されて居りますが、今のところ県から指導委員のバッジと、体育指導委員必携を一冊お預りしただけで、その実が整つて居りません。然し乍ら私達は以前より進んで献身的に奉仕して居る者であり私達自身手当を要求申上げるのではありません。唯事業費や指導に要する経費は来年度より出来る丈頑張つて戴かなければ、社会体育振興の実績は挙らないのであります。更に私達より要望申上げたいことは、将来それは一日も早く、市に少なくとも数名の有給社会体育専門の指導主事若しくは指導員を置き、われわれは推進員として御手伝い申上げるような制度にして戴きたいことを衷心より懇望致します。

申上げることが聊か脱線致しましたが、兎に角私達指導委員の責任は重大でありますが、さてその対照たるや、学校体育とは相違して、誠に広漠たるものでありまして、殆んど何れから手をそむべきか迷わざるを得ないものがあります故に先ず以て、

一、体育課並び教育委員会公民館等の体育事業に協力申上げること
二、各種の体育行事を通じて、体育の啓蒙宣伝につとめること
三、婦人会、青年団、PTA等の各種団体や職場の体育活動に協力申上げること
四、施設を確保し、最も有効な利用方、整備拡充に努力すること
五、スポーツ組織の育成拡充につとめること
六、体育経費の調達並びに利用方法を工夫する
七、その他出来る限り実技のお奨め並に指導に当ると共に指導同志の間に技術の協力提携を円滑にして指導能率を高めること
八、市当局並び各方面に体育振興に関する献言をさせて頂くこと
九、体育推進員を各方面に養成し、その活動を盛り上げること

等々何れも市民各位の御協力を全面的に頂かねばならぬ事のみであります。

茲に御挨拶と御願いを申上げる次第であります。